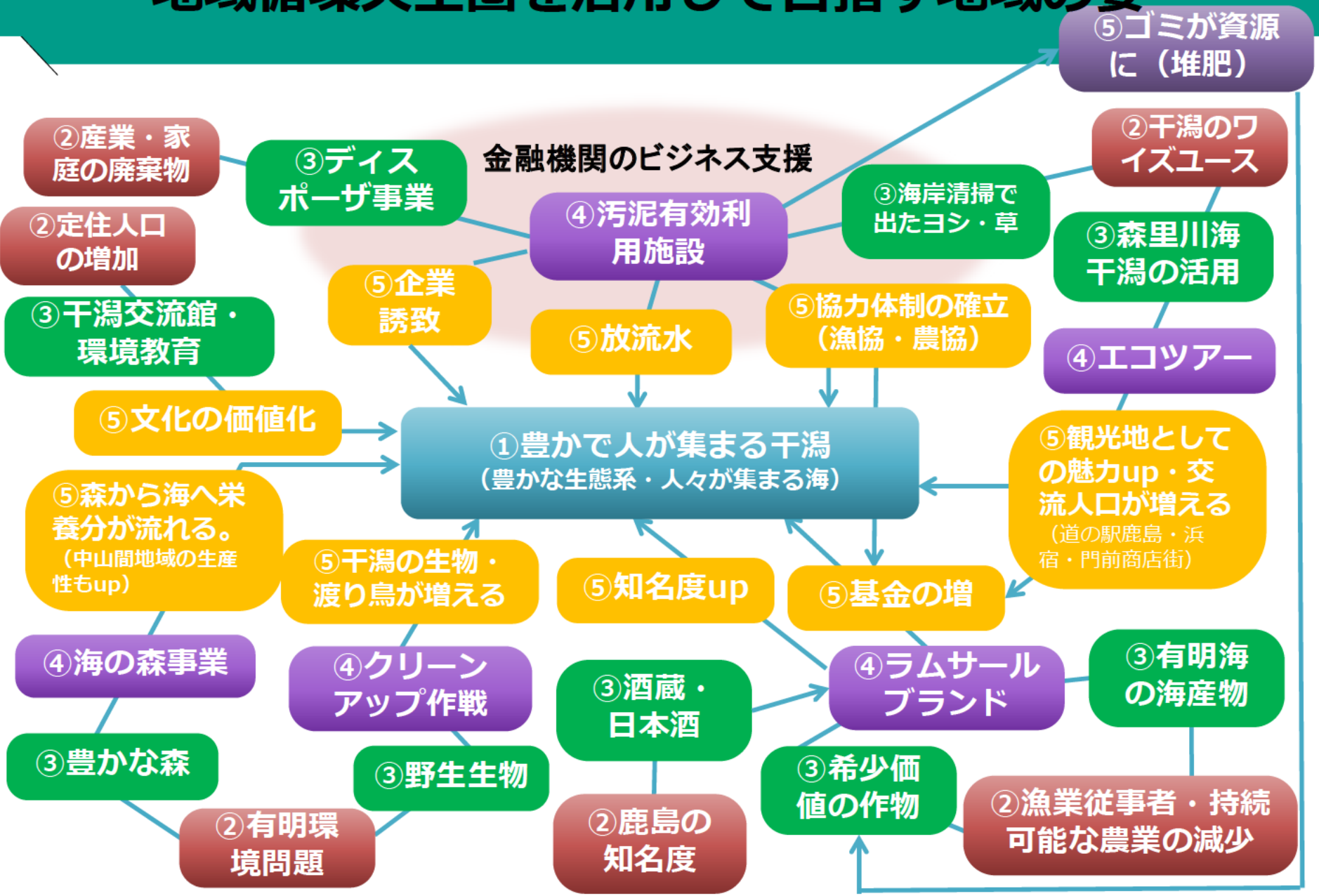
環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
成果報告会　発表資料

活動団体名：鹿島市ラムサール条約推進協議会
活動地域　：佐賀県鹿島市

活動におけるテーマ・キャッチコピー
「環境と産業の調和」から「有明海再生」に向けて

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



地域のビジョンを実現するための成果指標

豊かで人があつまる干潟

豊かな生態系・人々が集う干潟

	短期目標	長期目標
環境	ヨシの堆肥化事業 有機栽培に協力してくれる農家数増	農地の状況 環境にやさしい農業取組面積
	生態系サービスの向上 干潟の生物観測地（実験地）の充実	漁業資本の増加 二枚貝の漁解禁
経済	財源の充実 ラムサールブランド認証品の売上増	財源の充実 肥前鹿島干潟基金の増
	ディスポーザ事業による基金の増	雇用創出 鹿島市への企業進出
社会	干潟を守る活動の認知 クリーンアップ作戦への参加	ラムサール登録地の拡大
	環境教育の充実	地元企業への就職率増

コアとなる事業の概要3つ（事業のタネ）

1	事業の名称	**肥前鹿島干潟基金増額プロジェクト**	
	事業の概要	有明海の環境保全の資金を獲得するため、既存のラムサールブランド認証品の販路拡大と、市内事業所への直接売り込みを行う。 この認証品が流通することにより、人々の有明海への関心が高まり、さらなる保全活動の活発化が期待される。 その他、市内飲食店に対し、売り込みと１%寄付の協力をお願いする。この事業の成功事例を作り、事業者の自発的なプロジェクトへの参加を目指す。	想定される課題・ボトルネック • ラムサールとは？からの説明が必要 • 成功事例を作ること • １%寄付に協力してくれる飲食店を探すこと • 直接売り込みに行く方法
2	事業の名称	**汚泥有効利用施設活用　国交省の地域活力向上計画とのコラボ**	
	事業の概要	事業所にディスポーザを導入し、汚泥有効利用施設を活用することにより、今まで焼却していた生ごみの残渣・規格外農作物を堆肥として再利用し、CO2削減につなげる。また、その堆肥によってできた作物はラムサールブランド商品として、都市部へ流通させ、「肥前鹿島干潟」のPRと有明海保全のための資金を獲得する。これにより、豊かな海・豊かな生態系を維持することができる。また、ディスポーザを導入した事業所は環境に配慮した事業所をPRすることができ、企業誘致の際にも強みになる。	想定される課題・ボトルネック • ディスポーザで流れるドロドロになった生ごみを浄化センターでうまく処理できるか • 浄化センター周辺農家の住民感情 • 産業間の連携を行うために、多数の関係者の協力体制を構築できるか
3	事業の名称	**エコツアー開催**	
	事業の概要	エコツーリズム開催や、干潟交流館の活用による干潟の利用拡大（観光・産業） 環境教室や環境教育プログラムの実施により、環境や干潟への意識が高く、郷土を誇りに思う若者が増える。⇒若者の流出への歯止め⇒若者の雇用創出（企業誘致・すみよいまちづくり）	想定される課題・ボトルネック • 干潟体験者は多いが、宿泊施設がない。⇒お金があまり落ちない。 • シーズンオフの観光客の呼び込み⇒直接干潟に入ることはできない時期のプログラム

今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

今年度の成果
（本事業に取り組んで良かったこと）

- 今まで協議会のみで事業を行っていたが、ステークホルダーの巻き込みについて、これまで連携などしたことがなかった方々と協議ができたのがよかった。
- 環境と産業という立場から、メンバー同士の意見が相容れないことの方が多かった。しかし、学習会を経て、メンバーの意識が変わり、それぞれの立場に立って出発し、最終目標の「有明海保全」に向かうという共通認識が持てたのは大きな進歩だと思う。

地域の活動の上での課題

- 地域のビジョンについて

最終目標の「豊かで人が集まる干潟」のイメージが人によってちょっとずつ違う気がしてきた。

共通のイメージが必要。

- ステークホルダーの巻き込みについて

有明海の環境がこのように先が見えない状況の中、それぞれの立場の人たちを一つのテーブルにつかせるのは至難の業だった。その代わり、人との繋がりができた。このメンバーで共通目標に向かって、どうやって得意分野で活動していくかが課題。

今後の意気込み

- タマネギのディスポーザ実証実験が始まる。この結果が今後の事業の拡大にかかっている。ぜひ下水道事業と協力して成功させたい。（実証実験　4月～）
- 有明海保全のための干潟耕耘とキレートマリン実証実験という目標ができた。この実現のために、ラムサールブランド認証品の販路拡大をし、基金の増額を図る。（5月～3月）
- 産業部との連携会議を新年度から早速行う。